

## 第 46 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

# 開催記録

### 1 開催概要

- 日時：令和6年8月7日（水）10：00～12：00
- 場所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・谷川 章雄氏（早稲田大学名誉教授）
委員	・老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&Dセンター テクニカルオフィサー）※オンライン参加
オブザーバー	・文化庁文化財第二課 史跡部門 ・港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・港区 街づくり支援部 ・東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模プロジェクト推進部門 ・東日本旅客鉄道株式会社 建設工事部
サポート	・パシフィックコンサルタンツ株式会社

#### ■ 当日配布資料

##### 1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第45回委員会（7/3）部会②議事録案
- ・ 資料2：第45回委員会（7/3）部会③議事録案

##### 2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1：調査結果について
- ・ 資料2：雑魚場架道橋部橋台アンカー施工位置について



## 2 議事要旨

---

### 2.1 議事録確認

#### (1) 開会

- 第 46 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

#### (2) 議事録確認

##### 1) 第 45 回委員会 (7/3) 部会②の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

##### 2) 第 45 回委員会 (7/3) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

### 2.2 部会③

#### (1) 開会

- 第 46 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

#### (2) 調査結果について

- 資料 1 について説明する。(港区)

##### <説明概要>

- 加工木が検出された No.11・12 の追加調査、仮橋脚部のボーリング調査、三田口の横坑発進立坑の構築箇所のボーリング調査の 3 点を報告する。
- 8 箇所の仮橋脚部ボーリング調査の結果、灰色粘土となる浚渫土層が今回も確認された。
- 浚渫土層は薩摩台場の盛土層の上にあり、薩摩台場の構築土とは見ていない。
- これまでボーリング調査を実施してきた範囲については、灰色粘土の上に、褐色粘土が堆積している状況が分かってきた。
- 薩摩台場の盛土層とその下の基盤層となる黒色粘土層は、これまでのボーリング調査結果と同様である。
- 加工木周辺については、線路間という状況であり、これ以上平面的な掘削調査は不可能であったため、周辺の探針調査を実施した。
- 加工木と同等の高さで支障物に接触した地点から、加工木の想定最大サイズを整理した。

- 三田口の横坑発進立坑部のボーリング調査の結果、4箇所全てで支障物には当たらなかった。
  - 検出された土層は、3・6・7層については薩摩台場の上に堆積しているとみられる粘土層で、シルト層としている土層と比較して混じり気の少ない均一な層であり、貝片混じりの層もあったが非常に微細である。
  - 4・5層については海砂の堆積する状況が確認された。
  - これらから判断すると、重ね図の通り、薩摩台場と薩摩藩邸の間の流れの少ない水域の堆積を呈しているという印象である。
- No.1の支障物の取り扱いは今後検討する必要がある。しかしその他の部分は特段の構造物は確認できず、盛土内の遺物であると考えられることからNo.22・25・29・24・28・30の箇所については仮土留めの工事を可とする判断としたいが良いか。(委員長)
    - ← 異議なし。(委員一同)
  - No.11・12の加工木の調査についてはこの箇所は線路間であり、鉄道が走っている状況である。基本的には面的な調査が望ましいが、実際に難しいということであれば、鉄道運行に影響を与えないような形で可能な調査方法を考えてもらいたい、その方向で良いか。(委員長)
    - ← 異議なし。(委員一同)
  - 三田口の横坑発進立坑についても特段の構造物が検出されなかったので仮土留めの工事を可としたいが良いか。(委員長)
    - ← 異議なし。(委員一同)

### (3) 雑魚場架道橋部橋台アンカー施工位置について

- 資料2について説明する。(事務局)
  - <説明概要>
    - 雑魚場架道橋に打設するアンカー位置を変更したい。
    - 現地の施工性を考慮して、アンカーの本数、掘削径を変えない範囲でアンカーの施工位置について見直しを行い、2列並びを1列並びに変更したい。
    - 構造を見直したため、削孔長を短くすることができた。
- アンカー打設自体は、コアサンプルを取って石材の同定を行うことで許可する判断をしている。(委員長)
- 削孔長が短くなることで遺構への影響が緩和される方向となるため、変更を可としたいが良いか。(委員長)
  - ← 異議なし。(委員一同)
- 今後は、橋台背面の調査を含めて雑魚場架道橋全体の評価を本委員会で行いたい。もう少し整理に時間が必要だが、これを目標として進める。(委員長)

#### (4) その他

<部会①・部会②・部会③終了後>

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
  - ← 議論に感謝する。京急線連立 仮南行線築造に伴う高輪築堤への影響について、公共交通の安全のためにはやむを得ないと思う。(文化庁)
  - ← 部会②で、東海道の様相が分かってきたことは貴重な成果である。部会③では、加工木の調査方法について引き続き調整をお願いする。(東京都)
  - ← 気温が高いので、事故のないよう、体調を考慮して調査を進めてもらいたい。5・6街区の問い合わせは現時点で届いていないが、引き続き協力して進めていきたい。(港区)

#### (5) 閉会

- 次回委員会は9月4日(水)10時00分から、会場はJR東日本現地会議室を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

### 3 議事録

---

#### 3.1 議事録確認

##### (1) 開会

- (事務局) 第46回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
  - ・ 資料確認
  - ・ オンラインの案内
  - ・ 次第説明

##### (2) 議事録確認

- (事務局) 2つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

#### 3.2 部会③

##### (1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

##### (2) 調査結果について

- (港区) 資料1について説明する。加工木が検出された No.11・12 の追加調査、仮橋脚部のボーリング調査、三田口の横坑発進立坑の構築箇所のボーリング調査の3点を報告する。資料1-1に今回の試掘調査位置を示す。資料1-2に仮橋脚部のボーリング調査結果について示す。8箇所の仮橋脚部ボーリング調査の結果、灰色粘土となる浚渫土層が今回も確認された。茶系で示す層が薩摩台場の盛土層であり、浚渫土層は薩摩台場の盛土層の上であり、薩摩台場の構築土とは見ていない。これまでボーリング調査を実施してきた範囲については、灰色粘土の上に、褐色粘土が堆積している状況が分かってきた。薩摩台場の盛土層とその下の基盤層となる黒色粘土層は、これまでのボーリング調査結果と同様である。No.1のみ支障物が検出されたが、現段階ではそれが何かは分かっていない。また、遺構が確認された地点はなかった。資料1-3にボーリング調査成果のコア写真を、資料1-4にNo.11・12の加工木の追加調査について示す。線路間の調査のため、これ以上平面的な掘削調査は不可能であったため、周辺の探針調査を実施した。

加工木と同等の高さで支障物に接触した地点から、加工木の想定最大サイズを整理した。その結果、概ねCの横 2300mm、Bの縦 1790mm が最大値になると考えている。資料 1-5 に三田口の横坑発進立坑部の調査状況、資料 1-6 に三田口の横坑発進立坑部のボーリング調査結果を示す。4箇所全てで支障物には当たらなかった。検出された土層は、3・6・7層については薩摩台場の上に堆積しているとみられる粘土層で、シルト層としている土層と比較して混じり気の少ない均一な層であり、貝片混じりの層もあったが非常に微細である。4・5層については、海砂が堆積する状況が確認された。これらから判断すると、ここは薩摩台場ではなく、重ね図の通り薩摩台場と薩摩藩邸の間の流れの少ない水域の堆積を呈しているという印象である。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) 資料 1-2 にボーリング結果がまとめられているが、No.1 の支障物の取り扱いは今後検討する必要がある。しかしその他の部分は特段の構造物は確認できず、盛土内の遺物であると考えられることから、No.22・25・29・24・28・30 の箇所については仮土留めの工事を可とする判断としたいが良いか。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) 資料 1-4 に、No.11・12 の加工木についての探針調査の結果がまとめられている。この箇所は線路間であり、鉄道が走っている状況である。基本的には面的な調査が望ましいが、実際に難しいということであれば、鉄道運行に影響を与えないような形で、可能な調査方法を考えてもらいたいが、その方向で良いか。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) 資料 1-5 の三田口の横坑発進立坑についても特段の構造物が検出されなかったので、仮土留めの工事を可としたいが良いか。

(委員一同) 異議なし。

(委員長) 他に何かなければ、次に進める。

### (3) 雑魚場架道橋部橋台アンカー施工位置について

(事務局) 資料 2 について説明する。雑魚場架道橋に打つアンカーの位置を変更したい。前回報告から、現地の施工性を考慮してアンカーの本数、掘削径を変えない範囲でアンカーの施工位置について見直しを行い、2列並びを1列並びに変更したい。構造を見直したため、削孔長を減らすことができた。

(委員長) 質問、意見はあるか。

(委員長) アンカー打設自体は、コアサンプルを取り石材の同定を行うことで許可する判断をしている。位置の見直しとなるが、削孔長が短くなることで遺構への影響が緩和される方向となるため、変更を可としたいが

- 良いか。
- (委員一同) 異議なし。
- (委員長) 今後は、橋台背面の調査を含めて雑魚場架道橋全体の評価を本委員会で行いたい。もう少し整理に時間が必要だが、これを目標として進める。
- (委員長) 他に何かなければ、次に進める。

#### (4) その他

- (委員長) その他は何かあるか。
- (委員長) 特になければ部会③を閉会する。

#### <部会①・部会②・部会③終了後>

- (委員長) 最後に文化財行政からコメントをもらう。
- (文化庁) 議論に感謝する。京急線連立 仮南行線築造に伴う高輪築堤への影響について、公共交通の安全のためにはやむを得ないと思う。
- (東京都) 部会②で、東海道の様相が分かってきたことは貴重な成果である。部会③では、加工木の調査方法について引き続き調整をお願いする。
- (港区) 気温が高いので、事故のないよう、体調を考慮して調査を進めてもらいたい。5・6街区の問い合わせは現時点で届いていないが、引き続き協力して進めていきたい。

#### (5) 閉会

- (事務局) 次回の定例委員会は、9月4日(水)10時00分から、会場はJR東日本現地会議室を予定する。本日はお忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以上